

環境との関わり

伊藤忠商事は、国内外で幅広く事業を展開する企業として、地球環境問題を経営における最重要課題のひとつと位置付けています。持続可能な社会の実現に向け、環境保全活動推進に取組みます。

環境方針

2010年5月に改訂*した環境方針を基に、環境保全活動に取り組んでいます。

* 伊藤忠グループとしての取組及び生物多様性へ配慮を明確にしました

<http://www.itochu.co.jp/ja/csr/environment/policy/>

□ 伊藤忠グループ「環境方針」

環境マネジメント

1997年に商社で初めてISO14001に基づく環境マネジメントシステムを導入し、継続的改善に努めています。毎年環境リスクの未然防止に資する目標を策定し、進捗状況の評価・分析を行い確実に目標達成していくPDCAサイクルを回すことにより、目標を運用・管理しています。

社内環境監査の実施

ISO14001を基にした2010年度の社内環境監査対象部署数は73部署に及びます。約半年かけて実施する社内環境監査の結果が、環境リスクの未然防止などに繋がっています。CSR・地球環境室員及び社内環境監査人の資格保持者(423名登録)から監査チームを構成し、本年度も違法監査に力点を置いて実施しました。本年度より監査手法として2~3部署をまとめた形式での合同監査を導入。監査効率の向上のみならず他部署に対する相互理解につながり、監査の有効性も高めました。

外部審査の結果

日本環境認証機構(株)(JACO社)に毎年、ISO14001の認証審査を受けています。2010年度は『維持』審査に該当し、結果はシステムの継続的改善状況を認可され、総合評価『向上』にて『認証継続』となりました。

<http://www.itochu.co.jp/ja/csr/environment/management/>

□ 環境マネジメントシステム
□ 伊藤忠商事環境管理体制

環境リスクの未然防止

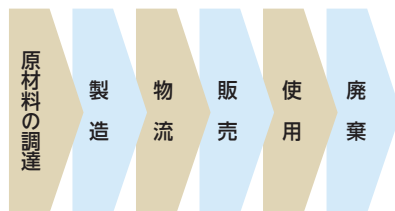
伊藤忠商事の取扱商品における環境リスク評価のみならず、グループ全体の事業活動が地球環境に与える影響を認識するた

め、グループ会社も対象に環境リスクの未然防止に向けた活動に努めています。

取扱商品における環境リスク評価

伊藤忠商事は多種多様な商品を世界規模で取引しているため、各商品の地球環境との関わりを評価することが肝要と考え、当社独自の環境影響評価を実施しています。当該商品に関わる原材料の調達から製造過程、使用並びに廃棄に至るまで、LCA*的分析手法を用いています。評価の結果、地球環境への影響が特定の点数以上となった場合、当該商品を管理対象とし各種規程・手順書を策定しています。

* LCA(Life Cycle Assessment)：ひとつの製品が、製造、輸送、使用、廃棄あるいは再使用されるまでのライフサイクルの全段階において、環境への影響を評価する手法



グループ会社実態調査

グループ会社への実態調査は、2001年にグループ数社で発生した近隣住民の環境汚染クレームに端を発しています。グループ会社(2010年度末約400社)のうち、地球環境に与える影響・負荷が相対的に高い200社程度を分析、年間約20社へ実態調査を実施しています。経営層との質疑応答から、工場や倉庫などの施設並びに河川への排水状況調査、環境法規制の遵守状況などを評価しています。

新規投資案件の環境影響評価

伊藤忠商事及び国内子会社が取組む日本国内・海外のM&Aによる事業投資案件については、その案件が市場、社会、環境などに与える影響を「投資に関わるCSR・環境チェックリスト」を使って事前に評価しています。専門的な見地を必要とする案件については外部専門機関に事前の調査を依頼し、調査の結果、問題がないことを確認したうえで、着手することとしています。

<http://www.itochu.co.jp/ja/csr/environment/risk/>

□ 環境関連相談件数

環境教育・啓発活動の推進

伊藤忠グループ社員への環境関連法令の要求事項の周知徹底及びその遵守並びに環境意識啓発のため、「廃棄物処理法」「土壌汚染対策法」「地球環境経営推進セミナー」などを開催し、コンプライアンス遵守の「守り」と環境保全型ビジネスを推進する「攻め」を積極的に展開しています。

<http://www.itochu.co.jp/ja/csr/environment/education/>

□ 地球環境経営推進セミナー

地域との共生

夏休み環境教室

1992年より、「次世代を担う子供たちへの環境教育」、「地域との共生」を目指し、東京都港区の小学生を主な対象として、毎年東京本社にて「夏休み環境教室」を開催し、2010年8月には45名の子供達が参加しました。気象予報士と気象キャスターによる地球温暖化をテーマにした講義やさまざまな実験など、活発な体験学習型プログラムとなりました。



夏休み環境教室

東京大学大気海洋研究所 気候システム研究系への支援

1991年より同組織の基礎研究を支援し、その研究成果の発表の場として「伊藤忠シンポジウム」を大阪・東京本社で開催しています。

オフィス環境 パフォーマンス

http://www.itochu.co.jp/ja/csr/environment/office_activities/

□ 電気使用量
□ ごみの排出量・リサイクル量
□ 水資源の有効利用